八十八話感想文・第二十四話

「あの時すぐ逃げていれば」

城辺中学校　一年　児島　兼聖

この愛南町に、いつ南海トラフ大地震が起きるのだろうと考えると、僕は不安になってきます。それと同時にニュースで見た東日本大震災の映像が脳裏をよぎります。

この資料を読むと、両親が僕に言うことは正しいのだなと改めて思いました。両親は「地震が起きたら、防災バックを持って、弟と一緒に山の方へ逃げなさい。」と日頃から僕と弟に言います。小学生のころは、二人だけでは怖いと思っていましたが、中学生になると「災害で家族がばらばらになっても、自分の命を守ることができれば、両親や祖父母にまた会えるんだ」と思うようになりました。この資料では、逃げることよりも、食料を確保することを優先してしまったためにに、逃げ遅れて命を落としてしまったのです。だから、何よりも先に逃げることが大切だと思いました

20 × 20

た。命をつなぐために食料は必要ですが、このような災害時には、まず、自分の命は自分で守ることが最優先です。命さえ助かれば、後は何とかなります。避難後の生活の苦労はあるとは思いますが、まず、命を守ることができたら、食事をすることも、睡眠をとることも、家族と再会することもできるはずなのですから。だから、この人たちも、事前に大切なことは何なのかを知っておけば、このようなことにはならなかったと思います。

この資料から、僕たちが学べることは、優先順位を間違えないことだと思います。何が大切で、何を一番にしなければならないか。それは自分の命を守ることです。命を守るために逃げることです。これまでに両親から教わったことや、学校で学習してきたことを十分に頭に入れて、いつ起こるともわからない地震に備えたいと思います。それが、この資料や、東日本大震災で亡くなった方たちのためにも、今の僕たちにできることだと思いま

す
。

20 × 20